盛岡市の小山卓也さん　教え子たち共同制作

ブック・エンド・ドリーム　大槌学園に作品寄贈

元高校教師の小山卓也さんと教え子らで運営するBook and Dream（ブック・エンド・ドリーム）プロジェクト（紺野衆代表）は2014年に大槌町立大槌小（当時）の児童らと3点の絵画作品を制作。同町の4小学校と1中学校が統合した小中一貫の同町立大槌学園が今年11月12日に落成したのに合わせ、同29日に共同制作した3作品を同校に寄贈した。

寄贈された「ひょうたん島と虎舞」（中央）などの作品と小山卓也さん、大槌学園の大森厚志校長（右から）＝Book and Dreamプロジェクト提供＝

同プロジェクトは、小山さんが震災前に描いた沿岸部の風景などをプリントしたオリジナルのノートやファイルを販売し、東日本大震災被災地の小中学校に図書券を贈る活動を続けている。仮設校舎で授業が行われている学校など、これまで10校に総額約65万円分の図書券を贈呈。現在は残る6校への贈呈を目指し、ホームページ（http://www.bookanddream.com）やイベントなどで販売を続けている。

1975年に盛岡一高を卒業した小山さんの教え子有志らが、プロジェクトを運営する。児童との共同制作は、画家や彫刻家として活躍するメンバーを中心に行われた。大作の「ひょうたん島と虎舞」（1・1㍍×2・7㍍）は大船渡市出身の画家・三浦千波さんが全体のデザインを担当。画家の伊東明子さん、橋本時浩さん、彫刻家の伊藤馨一さんも制作に加わった。そのほか、下絵を30分割して一人ひとりが自分のパーツを完成させたちぎり絵「ひょっこりひょうたん島」「南部鼻曲がりサケ」も制作。今回合わせて寄贈された。

紺野代表（60）は自身が20代のときに読んだ本をきっかけにサハラ砂漠を旅した経験から、教育における本の役割を重視する。「震災から6年目となり、内陸で復興支援の思いは薄れているのでは。あと6校に図書券を贈れるよう、活動を続けたい」と話している。